

本書の構成と凡例

- 本書は、全 16 章、131 疾患、各章冒頭の正常解剖・鑑別診断または病期診断で構成されています。
- 初学者にも読みやすいように 1 疾患ごとに見開きで解説しました。また、診断のポイントとなる画像には“KEY FILM”のマークを、読影上または鑑診断上、重要な事柄が書かれているところには“ポイント”のマークをつけました。→下記の凡例を参照してください。

- 1 章「検査・読影法」では診断の基礎知識を、2 章以降では冒頭の正常解剖・鑑別診断または病期診断で解剖と診断の知識をわかりやすく解説しました。
- 各章には代表的な疾患と参考症例も含め多数の症例を提示しています。NOTE を適宜入れてありますので、知識の整理に役立ちます。

● 症例解説ページの構成

読影のポイントとなる KEY FILM には KEY を付けました。

212 10. 前立腺

前立腺肉腫

prostatic sarcoma

● 症例：49 歳、男性。尿閉を主訴に来院。直腸指診で手拳大、弾性硬、表面不整な腫瘍を触知。PSA 値は 0.9ng/ml.

▼ 症例

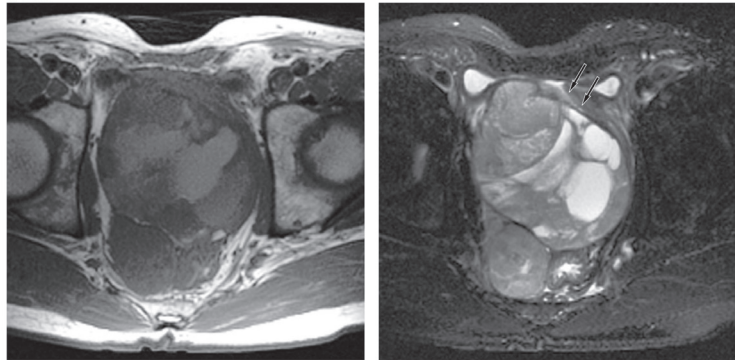


図 1-A MRI, T1 強調像

図 1-B MRI, T2 強調像 (脂肪抑制併用) **KEY**

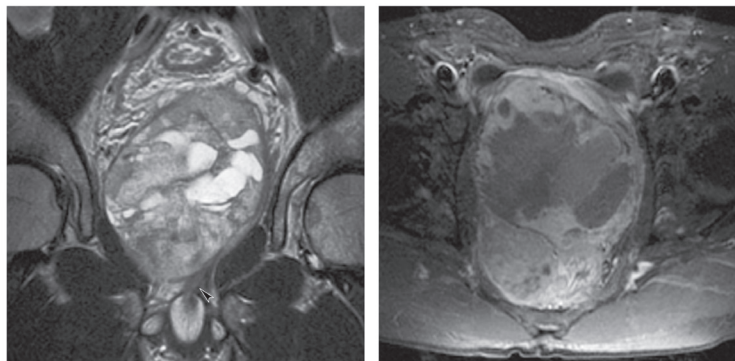


図 1-C MRI, T2 強調冠状断像

図 1-D MRI, Gd 造影 T1 強調像 (脂肪抑制併用)
(鳥根大学医学部放射線科 吉廻 毅先生のご厚意による)

前立腺肉腫 213

画像所見

前立腺に相当する位置に、MRI, T1 強調像 (図 1-A), T2 強調像 (図 1-B) で低信号と高信号が混在した巨大な腫瘍がある。また、この腫瘍と連続して、右背側に突出する腫瘍も認める。造影効果 (図 1-D) は辺縁部に強く、中心部はほとんど造影されず壊死を生じていることが予測される。膀胱頸部から前立腺部尿道 (図 1-B; →) と腺様部尿道 (図 1-C; →) は大きく左へ偏位している。通常の癌であれば、前立腺内に広がることによる尿道の狭窄はあってもよいが、前立腺の中心を走行する尿道の偏位は本症例ほど極端ではないと思われる。前立腺全体が層構造を保ったまま左側へ偏位した状態、例えば前立腺被膜などから生じた病態と考えると、位置関係は合致する。不均一な信号や中心壊死を思わせる造影効果の不良などにより、通常の癌よりも肉腫が疑われる。
剖検で得られた病理組織の検討で、平滑筋肉腫と診断された。

前立腺肉腫の一般的知識

前立腺平滑筋肉腫は稀な疾患であり、発生頻度は前立腺悪性腫瘍の 0.1% を占めるにすぎない。前立腺癌に比べると、発症年齢が 50 歳以下の症例が 50% 程度ある。経直腸超音波検査上では、嚢胞様の中心壊死所見が特徴的とされている。予後は不良で、診断および治療後 1 年以内に死亡する症例は 50% 以上である。根治手術に代わる有効な治療法が確立されていないので、若年者が下部尿路閉塞症状を訴える場合には、本疾患を鑑別に挙げて、直腸指診や適切な画像検査を施行する。

鑑別診断のポイント

通常の前立腺癌や、他の組織型の腫瘍 (NOTE 参照)、あるいは前立腺肥大症などが挙げられる。腫瘍が大きい場合は発生母地もわかりにくい場合がある。著者自らが経験した前立腺肉腫は、前立腺被膜を母地と思わせるピークサインが確認でき、腺葉は圧排されて変形はあるものの同定可能であった。腫瘍と腺内の辺縁域、移行域、中心域の位置関係や、周囲構造 (精囊、精管、膀胱、直腸、周囲静脈叢、神経) は正常大に同定できるか、特異的な信号強度を有していないか (脂肪、血腫、粘液基質、flow void) などを丹念に観察する。

NOTE

【通常の前立腺癌以外の前立腺腫瘍性病変 (代表的なもの)】
上皮由来病変： 類内腺癌、粘液癌、小細胞癌、移行上皮癌、葉状腫瘍
造血系由来： 悪性リンパ腫、白血病
間葉系由来： 平滑筋肉腫、平滑筋肉腫、横紋筋肉腫、褐色細胞腫、solitary fibrous tumor、滑膜肉腫
神経系： 神経鞘腫
転移：

参考文献

1) Cheville JC, Dundore PA, Nascimento AG, et al: Leiomyosarcoma of the prostate: report of 23 cases. Cancer 76: 1422-1427, 1995.
2) Terris MK: Transrectal ultrasound appearance of radiation induced prostatic sarcoma. Prostate 37: 182-186, 1998.

左ページの症例写真の読影とその後の経過・最終診断を記載しています。
 が目印です。

当該疾患に関する一般的な知識と画像所見について解説してあります。

鑑別診断のポイントを丁寧に解説してあります。
 が目印です。

知っておくべき知識は囲み記事 **NOTE** で簡潔に解説。

特に参考にすべき文献を挙げました。